戦争体験や復員船の話など
山崎小学校で平和講話

♪しずかな　しずかな　里の秋♪　赤いアコーデイオンを片手に「里の秋」などの童謡を歌いながら、歌の背景や戦争との関わりを説明する藤沢市在住の保坂治男さん(80)。

鎌倉市立山崎小学校(児童数694人・林紋子校長)で7月4日平和講話があり、3・4年、5・6年が同校体育館で聴講した＝写真。

鎌倉市が公募のために歌詞が書き換えられ、「里の秋」に改題された。1945年、小学生だった川田正子の歌唱で放送されたことなども話した。

保坂さんは小学校の教員を40年間務めた。大和市の小学校長を定年退職後、5年ほど前から戦争の語り部として講演をしている。

保坂さんは小学生のとき、東京で空襲にあい、火柱で前が見えない中、必死で逃げた。一晩たち、おにぎりを差し出してもらったが、手が震えてつかめず、手を借りて口に持っていっても歯がガチガチして食べられなかったと、そのときの恐怖感を伝えた。

童謡「里の秋」は1941年に「星月夜」の題で作詞された曲で、戦後復員船で帰ってくる兵隊たちを励ますために歌詞が書き換えられ、「里の秋」に改題された。

平和推進事業の一環で、平成12年度から市内の学校へ戦争体験や国際協力などの講師を派遣している。

手書きの絵や写真などの資料を見せながら、身振り手振りを交えての話に、児童たちは耳を傾けていた。

世界でひとつ 貝の動物づくり
角田(つのだ) 元(はじめ)さん

動物の頭から体、目、鼻、耳、手足まで全て貝で作る。極小の動物の目は米粒ほどの貝殻を使う。

それだけでも驚きなのにフルートを吹くカエルやチンパンジー、象、リス、恐竜など大小の動物たちは生き生きと表情豊か。しかも自然のままを出したいと「割らない」「色を塗らない」「穴をあけない」の3ないが原則。「へぇー」と驚き、細部に目をやるしかない。

1947年元旦、葉山町で生まれ、育った。とくれば、貝細工も当然か。でも違う。「最初はボートや小舟伝馬船を作り、海の上から魚たちとの駆引きに明け暮れていた」。12年ぐらい前、逗子海岸でサクラガイやツノガイを拾ってきた。菓子箱に並べているうちに欲が出る。「何か作ってみたい」。

犬、猫、鳥を試作した。失敗ばかり。やめたくなる。人に見られるなんて考えもしなかったが興味を抱き、制作に参加。いまや副園長を務める。両親や子どもたち、孫にまで関心が広がる。

ニワトリに似た貝に手足を付けて写真を玄関先に飾ってみた。公開第1作から評判になった。「掲示板」と名付け、毎週、作品を替える。遠方の人から電子メールが届く。

「世界でたった一つの作品」が、多くの人に見られる。「褒められ調子に乗って、深みにはまってしまった」と苦笑する。掲示板は7月末で280回を超えた。使った貝は2百種近い。

町で展示会や子どもを対象に作品づくりの教室を開催。教室は千葉県市川市に進出、8月には奈良県でも実現する。参加者が多いと、材料集めが大変だが、多くの人からもたくさんの貝が提供されたりする。

受講者はどの貝をどう組み合わせるか、悩む。「この苦しさは誰も避けられない。私は遊びだから焦らないで、と声をかけるだけ。あっ、できたと喜ぶときの笑顔の素晴らしさ」。何年も使わずにいた貝が、突然ひらめいて使う場ができた自らの体験を、参加者たちの気持ちに重ねる。

早大文学部卒業後、広告会社勤務。貝のことを知った同僚は「いつやってたの？」しばらく会社も続け、貝も教室を増やし、同時に動物たちを充実させたい」と意気込む。文・写真　洞口和夫

子ども神輿、焼き鳥、ジャズ演奏
鎌倉 岡本の祭りで住民が交流

鎌倉市岡本の鎌倉ロジュマンで7月16日、28回目の夏祭りが行われた。

そろいのはっぴ姿の子どもみこしが巡回し＝写真＝、住民たちの焼き鳥や焼きそばなどの模擬店に列ができた。射的や金魚すくい、地区の青少年指導員のペットボトルを使った剣玉づくりや玉縄中学校華道部、かまくら似顔絵倶楽部などのコーナー、周辺の病院や幼稚園などの出店も人気だった。植木リトゥルエコーアンサンブルらの演奏を楽しむ人も多かった。

鎌倉ロジュマンは1976年の建設で築35年。10階建てが4棟あり、総戸数は557戸。祭りはここの住民だけでなく、周辺の学校や施設、マンションなどからも大勢が参加し、地域の交流の場になっている。

園児たちが歌や踊り奉納
筆硯や琴など供えて七夕祭

七夕の7月7日、夕刻から鶴岡八幡宮で七夕まつりが行われた。

四方の吹流しが風になびく舞殿に野菜や果物、筆硯、琵琶や琴などが供えられ、宮司の祝詞奏上のあと、巫女舞が雅楽の演奏とともに奉納された。

神事が終わると、参列していた鶴岡幼稚園（吉田茂穂園長）の年長組の園児ら45人が3組に分かれて舞殿に上り、踊りや七夕さまの歌を元気に披露し＝写真＝、保護者や神職、訪れた人たちから拍手喝采を受けていた。

大船渡物産展とにぎわう
復興支援で大船商店会ら

「大船から大船渡へ」を合言葉に7月16日、岩手の物産展や、模擬店、路上コンサートなどが大船駅東口の大船2丁目の信号までの芸術館通りを歩行者天国にして行われた＝写真。

大船駅東口の商店会を中心とした実行委員会の主催で、予想を上回る2万人以上の人出があったという。

三陸わかめ、銘菓「かもめの玉子」、さんまのあぶり出しラーメンなど実行委が仕入れた被災地・大船渡の物産約10品目はすべて完売。ほかにも花巻市の商店が北上コロッケ、わんこそば、冷麺、地酒などを販売した。

鎌倉学園のインターアクトクラブ、大船中学ボランティア部の生徒らが街頭で募金を呼びかけた。

実行委の鈴木健介さんは「大船渡の人々との絆ができた気がする。復興支援を長い間続けて行きたい」と話していた。

安心安全な鎌倉の海
7月1日に腰越海岸で海開き

鎌倉の海開き式が7月1日腰越海水浴場で行われた＝写真。日差しが照りつけ気温も高めだったが、まだ人影のまばらな海岸で、午前10時から神官が祝詞奏上し、海の安全を祈願した。

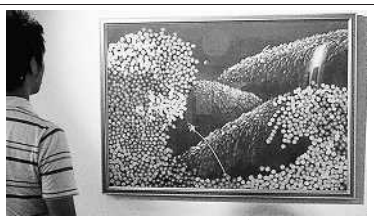
鎌倉市長、観光協会、商工会議所、海水浴場連絡会などの関係者らが式典に参加した。

松尾崇鎌倉市長は「昨年の海水浴客は95万人あったが、今年はより多くの人に楽しんでもらえるよう安心安全な海水浴場に取り組んでいきたい」と挨拶した。

上空にヘリコプターが飛行し、市の消防本部とライフガードの水難救助訓練も行われた。

鎌倉の海水浴場は材木座、由比ガ浜、腰越の3カ所あり、8月31日まで午前9時から午後5時まで監視所のライフガードらが海の安全を見守る。

雄大な自然鮮やかに
平松礼二さんと教え子らが絵画展



平松礼二さんの「夕秋図」

雄大な雪山、星空、鮮やかな色彩の人物や草花などはつらつとした作品の数々。鎌倉在住の日本画家・平松礼二さん(69)ら湘南地域に暮らす新鋭や中堅、ベテラン画家たちの展覧会が7月上旬、鎌倉生涯学習センターで開かれた。

平松さんが多摩美大の教授をしていたときの教え子、15年ほど前、群馬で開いていた美術学校の生徒や友人らが集まって2009年に結成した「湘南懇談会」の初めての展覧会で、13人の大作約30点が展示された。

同会は日本画、洋画を問わず基礎勉強がしっかりした画家たちが、平松さんや東京工芸大教授の石川健次さんらを中心にときどき集まって湘南のあれこれを話しながら勉強会を行っているという。

深沢高生らが川の清掃に汗
鎌倉西LCが音頭

長靴や運動靴でバシャバシャと川の中を歩きながら、空き缶やビニールなどを拾い集める生徒たち。

鎌倉の深沢行政センターから中外製薬にかけての新川の清掃活動が7月4日の午後行われた＝写真。鎌倉西ライオンズクラブ（会員21人・石井満会長）が5年ほど前から行っている奉仕活動で、4回目。

県立深沢高校の教員・生徒ら約百人と地域の老人クラブの会員らも参加した。

ナタで川岸の雑草を刈ったり、川底の土砂などをならす。刈り取られた雑草は市の職員が引き上げ、トラックに積んだ。関谷で堆肥化されるという。

「深沢まつりの会」のメンバーも加わり、清掃に汗した。8月6、7の2日間周辺で夏まつりが行われる。

東慶寺の体験教室
自分さがしと自分みがきに
早朝座禅会
写経会
茶道体験
香道体験
押し花体験
東慶寺
詳しくはホームページをご覧下さい
WWW.tokeiji.com
お問合せ、申込みは東慶寺まで
0467-22-1663

鎌倉駅より徒歩5分！　鎌倉の葬儀専用斎場
カドキホール
御成町3－5
下馬四ッ角そば
仏式のほか、神式、キリスト、無宗教の方もご利用できます。
家族葬も行えます。事前相談もお気軽に！
詳しくはお電話かホームページで
http://www.kadoki.co.jp
TEL(0467)22-0562(代)
◎下馬四ッ角のマイパーキング鎌倉駐車場に契約してございます。
お車でお越しの方はご利用下さい。

本を通じ、皆様のお役に立ちたいと願っています。
雑誌・書籍・文具・事務用品・ファンシー
鎌倉駅東口前　☎0467-22-0266
大船駅東口前　☎0467-46-3841
島森書店